

令和2年度

教育委員会点検・評価報告書

下呂市教育委員会

令和3年11月

はじめに

下呂市では、下呂市第二次総合計画の教育分野において、「生きる力や豊かな文化を育みます」の基本理念のもと、明日の下呂市を担う人づくりに取り組んでいます。

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の規定に基づき、教育委員会は、毎年その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検・評価を行い、その結果に関する報告書を作成して議会に提出、公表することとされています。

下呂市教育委員会では、効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民への説明責任を果たすため、施策及び事務事業に関する点検・評価を実施し、報告書を作成しています。

令和3年11月

下呂市教育委員会

令和2年度「学校教育の方針と重点」についての点検・評価

1 方針及び設定指標に係る点検・評価

【方針】

◇「学びに向かう力」や「共生・創造する力」等、一人一人に「生きる力」を育む教育を推進する

◇学校の教育目標の具現に徹し、地域に信頼される学校経営を推進する

【指標】魅力ある学校づくりに向けて

① 「学校が楽しいと感じる児童生徒の割合」を90%以上にする。

② 「授業の内容が分かり易いと答える児童生徒の割合」を90%以上にする。

③ 「授業で学ぶことが楽しいと答える児童生徒の割合」を80%以上にする。

※「あてはまらない」「どちらかというにあてはまらない」等と回答した児童生徒に目を向けた指導や支援の充実

《指標結果》

① 学校が楽しいと感じる児童生徒の割合

年度	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
目標	82.0	85.0	88.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0
実績	93.7	94.2	94.9	94.8	95.2	94.9	95.5	94.7	93.8	92.5

② 授業の内容が「分かり易い」と答える児童生徒の割合

年度	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
目標	82.0	85.0	88.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0
実績	94.1	94.0	95.0	93.7	95.3	95.1	95.7	95.3	94.0	94.6

③ 授業で学ぶことが楽しいと答える児童生徒の割合

年度	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
目標	令和元年度からの新設設定指標								80.0	80.0
実績									91.4	92.4

〈総評〉

- 新型コロナウイルス感染症拡大防止を余儀なくされ、学校生活は大きく変わった。マスクをして小声で会話したり、黙って給食を食べたりするなど、コミュニケーションがとりづらい生活となった。そのこともあって、「学校が楽しい」と答えた児童生徒の割合が微減したと考えられる。
- 一方、「授業が分かり易い」「授業で学ぶことが楽しい」という割合が微増している。これは、コロナ禍にあっても各学校が一人一人の「分かる」「できる」という学びを大切に、試行錯誤した努力が実を結んだものと考えられる。また、児童生徒もコロナ禍でできることを考え、運動会などの行事では感染症対策を踏まえた種目などを考案するなどたくましく生きる力もついた。
- 学校生活全般に対する児童生徒の満足度は90%以上と高く、各校における教育活動の充実を表している。満足感や充実感を得られていない「残り数%」の児童生徒については、個々の実態を把握・分析し、児童生徒が「なりたい自分」にむけて、自身の成長や有用感を感じられる指導を行うことが必要である。
- コロナ禍のように未来は予測不能な困難も起こりうる。目前の課題を解決していくたくましさや身につけるため、学校・家庭・地域が「育てたい資質・能力」を共有し、一体となって取り組む教育活動を推進していかなければならない。

2 重点における評価

(1)「確かな学力」の定着を図る指導の充実

① 学力向上、教科指導充実内容と評価

【主な取組】

- ・全国学力・学習状況調査の結果分析と授業改善（コロナ禍により中止）
- ・C R T調査をもとにした個々の児童生徒の実態把握
- ・授業の終末における評価問題や補充問題の確実な実施
- ・少人数指導の実施：少人数指導加配、教科専門配置校（萩原小、下呂小、金山小、萩原南中、下呂中）
- ・複式学級における教科担任、中学校の免許外指導解消による授業の充実
- ・I C Tや具体物を活用した授業

【成果・評価】

- ・コロナ禍による休校中は、学習プリントや動画の配信などを行い、各学校で一人一人への対応を行ったことにより、学習内容を補充することができた。
- ・C R T調査やアンケートをもとにして、各学校で「育てたい資質・能力」の決めだしを行い、ポイントを絞った授業改善に着手し、進行しつつある。
- ・「授業がわかりやすい」「授業で学ぶことが楽しい」と答える児童生徒の割合が微増した。コロナ禍の逆境を主体的な学習の場ととらえた各学校の指導として、例えば自分ひとりで考える学びの時間を増やし、自分から解決するための学び方を身に付けるなどして、解決できた実感などが「授業が楽しい」につながるような取り組みの成果だと考えられる。
- ・I C Tの導入は先行実施の学校でタブレット端末を配付して実践し、個に応じて学習の定着がはかることができた。

② 特別支援教育の充実内容と評価

【主な取組】

- ・主幹教諭配置による各校への指導と助言及び特別支援コーディネーターの資質向上
- ・障がい児教育支援委員会充実による適正就学と適切な支援体制の構築
- ・市費学業支援員、県費非常勤講師配置による個別支援の充実（市費27名 県費5名）

【成果・評価】

□特別支援学級、通級指導教室設置状況

	知的	自閉情緒	難聴	肢体不自由	言語通級	LD/ADHD等通級
小学校（13）	11校	5校	1校	1校	2校	4校
中学校（6）	6校	4校				

- ・令和2年度も、市費学業支援員等の配置を計画的に進めてきたことにより、個の教育的ニーズに応じた支援ができています。各校においては、関係機関や保護者との連携・連絡を密にすることで合意形成による長期的な支援方法も考えられている。「下呂市専門家チーム派遣」も多く活用された。
- ・対象児童生徒の増加・多様化傾向にあり、それに対応する特別支援学級や通級指導教室の確保、専門的な指導ができる教員の育成が課題である。また、障がい等で困り感のある人やその家族の相談や支援を、幼児から成人まで途切れのないものにするための仕組みを学校関係者にも周知する必要がある。

(2)「豊かな心と健やかな体の育成」を図る指導の充実

① 道德教育等の充実内容と評価

【主な取組】

- ・「特別の教科 道德」の実施と実践による道德の時間の充実
- ・中学校区における9年間を見通した意図的・計画的・発展的な道德教育の推進
- ・コミュニティスクールによる体験的活動、学校行事や生徒会活動の工夫等による人間関係構築

【成果・評価】

- ・コロナ禍や災害を経験し、自分たちに関わる人々の温かさを学ぶことができ、下呂市生徒会宣言につなげることができた。
- ・ふるさとを知り、ふるさとを誇りに思う気持ちの高まりがあり、それが地域貢献活動への積極的な参加につながっている。
- ・9年間で培いたい道德性を中学校区内の小中で共有するだけでなく、コミュニティスクールを通して、それを地域と共有する素地ができつつある。
- ・一方、「自己を見つめる力」「困難を克服する強さ」など、個々の弱さも感じられ、さらなる充実が必要である。

② 生徒指導の充実内容と評価

【主な取組】

- ・管理職を柱とした生徒指導体制の構築（組織対応、未然防止、早期発見と早期対応、連携）
- ・いじめ未然防止と早期発見・早期対応に関する研修の充実
- ・規範意識を高める指導の工夫と充実
- ・生徒指導研究協議会や主幹教諭による各校への指導と助言及び生徒指導主事の資質向上

【成果・評価】

☐ いじめの認知件数

H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
30	19	34	28	117	123	108	54

- ・昨年度などと比べて認知件数は減った。コロナ禍による臨時休校期間も含めた集計ということであり、激減というとはえではない。したがって、今後も学校生活についてのアンケート調査や教育相談をこまめに行い、早期対応を心掛けることが必要である。
- ・学校において早期発見、早期対応の意識が高まり、事案発生時の組織的対応も確立されてきている。したがって、認知後の対応で深刻な事態にまでは至っていない。
- ・「下呂市いじめ防止等対策推進条例」等に基づいて組織された「下呂市いじめ問題専門委員会」と「下呂市いじめ問題対策連絡協議会」とが本格的に動き出し、いじめ問題に対する組織体制が整った。

☐ 不登校

校種	小学校					中学校				
年度	H28	H29	H30	R1	R2	H28	H29	H30	R1	R2
人数	3	3	5	4	3	18	18	15	17	20
1000人当たり	1.9	1.9	3.3	2.6	2.0	20.4	20.5	11.9	22.2	26.8

- ・小中学校ともに、1000人当たりの出現率が、国や県を下回る傾向で推移している。
*R2：1000人当たりの出現率：国（小）10.0人（中）40.9人 県（小）11.2人（中）41.0人
- ・中学校での増加についてはコロナ禍との関係性は直接的なものではなく、家庭状況や人間関係など複雑な要因が絡んでいると考えられる。専門家や関係機関との連携を密にして、個別に対応している。また、不登校児童生徒の社会性を育てるためにも、家庭以外の居場所づくりについて、不登校児童生徒対応支援室の活用の在り方を検討したい。

③ 健康及び安全教育の充実内容と評価

【主な取組】

- ・毎朝の健康観察及び保護者との連携強化 ・学級活動における食育や健康教育の充実
- ・食物アレルギー対応指針の啓発（保護者向け説明実施）
- ・「自分の命は自分で守る力」の育成（命を守る訓練の充実、市防災訓練への小中学生の参加）
- ・スクールサポーター事業の継続、強化 ・ボランティアによる見守り活動

【成果・評価】

- ・県の通知を受けて、下呂市独自の対策指針やマニュアルを作成し、学校での感染症拡大防止対策を徹底することができた。
- ・学校職員は、体温チェックや健康カードによる感染症を防ぐこと、手指消毒やマスク着用の徹底などによる感染を広めないことなどの対策に試行錯誤を繰り返し、感染症との共存について新たに理解を深めることができた。
- ・コロナ禍により、児童生徒に感染のしくみを教えたり、日常の防止策を考えさせたりすることにより、児童生徒に感染を防ぐ意識が培われた。
- ・学校職員はもとより、スクールサポートスタッフ・PTA・地域ボランティアなど、多くの大人が子どもたちの健康を守るために消毒作業や感染予防グッズの提供など関わった。
- ・通学時の安心安全の確保について、地域人材が活躍しつつある。学校運営協議会や地域ボランティアとの連携は不可欠な状況である。

（３）その他の教育活動、研修事業

① 地域に信頼され地域と共にある学校づくり

【主な取組】

- ・児童生徒や保護者、学校評議員、教職員によるアンケート調査を実施し、定期的評価・検証による教育活動を展開
- ・各校ホームページ充実（教育活動や行事の紹介（写真）や学校だより、学校評価）
- ・地域協働による子育て体制整備

【成果・課題】

- ・全小中学校において学校運営協議会が設置された。
- ・地域ボランティアの方々によって消毒や検温をしていただいたり、災害に対する支援を受けたりして、地域とともにある学校を感じることができた。また、児童生徒に「ふるさとを思う気持ち」「他を思いやる気持ち」が高まり、地域行事や地域ボランティアに参加する姿が多くなった。（地域貢献）
- ・地域協働による子育てを充実、発展させるために、「こんな子に育てたい」「こんな地域にしたい」等を、地域や保護者と熟議する必要がある。

② 教職員の資質向上

【主な取組】

- ・教育研究所による研修事業充実
- ・市初任者研修、２年目研修実施
- ・市校長研修、教頭研修実施
- ・嘱託研究会

【成果・評価】

- ・教育実践講座 夏季講座：コロナ禍により中止
- ・教育実践論文応募 ２０点（昨年度より４点増）
- ・コロナ禍により対面での研修は減ったが、一方でオンラインの研修が実現し、今後の研修の在り方の一つとして有効であることが分かった。

(4) 教育環境の整備と充実

- ① 育英資金活用事業や要保護・準要保護就学援助事業により、経済的・身体的な理由により就学、進学が困難な児童生徒に対する就学支援の充実を図った。

・育英資金活用事業	高校生 31 名
・要保護・準要保護就学援助事業	小学生 78 名、中学生 60 名

- ② 改築、修繕関係

・萩原小学校長寿命化改良工事実施設計業務を実施した。	11,160千円
・金山小学校統合改修工事実施設計業務を実施した。	7,409千円
・小中学校屋内運動場LED化に伴う調査業務を実施した。	1,145千円
・竹原小学校、下呂中学校高置水槽取替工事を実施した。	5,049千円
・小中学校空調機整備工事を実施した。	19,877千円
・中学校トイレ改修工事を実施した。	8,855千円
(令和元年度からの繰越事業)	
・萩原小学校長寿命化改良1期工事を実施した。	92,000千円
(令和3年度までの債務負担事業)	
・金山小学校統合改修工事を実施した。	95,000千円
(令和3年度への繰越事業)	

令和2年度「文化財保護事業の方針と重点」についての点検・評価

■文化財保護事業の方針と重点について

1. 方針と成果指標及び評価

1-1. 下呂市第二次総合計画の内容

[基本目標] 2. はぐくみ

[基本施策] 2-4. 歴史・文化財「みんなで守ろう文化財 ふるさとの文化を受け継ぎ守ります」

[目指すまちの姿]

- ①文化財を活用することで、地域文化の向上発展と地域振興を図っているまち
- ②市内全域にある埋蔵文化財の位置情報の正確な記録があり、迅速な情報提供、適切な保存・保護がなされているまち
- ③博物館収蔵品が適切に保存管理され、テーマに沿って随時展示公開することで、下呂市の歴史や文化が市民に深く理解されているまち

1-2. 第二次総合計画の成果指標について

【成果指標①】 埋蔵文化財調査の実施及び調査報告書の成果公開件数

年度	H30	R 1	R2	R3	R4
目標	下呂市全域 遺跡地図編 集製本	発掘調査報告書 を利用した公開 事業案の計画	史跡復元イラ ストの作成 (萩原諏訪城・ 桜洞城)	史跡復元イラ ストの作成 (鳳慈尾山威徳 寺)	成果品の有効 活用
実績	前回指標の 目標達成	城郭等復元イラ ストの事例調査 及び予算化	地域住民との 共同校正作業 及び展示	—	—

内部評価：これまでの成果指標である「下呂市遺跡詳細分布調査報告書」を平成30年10月に発刊したことから、過去に刊行した発掘調査報告書をもとに城郭等の復元イラストを作成し、史跡の全体像を具現化した状態で広く紹介することを新たな成果指標とした。

令和2年度は萩原町の「萩原諏訪城」と「桜洞城」に着手。有識者や地域住民の意見をうかがいながら校正を繰り返し、地域にある文化財の保護意識を高めることができた。

イラスト完成図（成果品）は原図を下呂ふるさと記念館に展示、複製品を地域公民館に贈呈した。なお、令和3年度は下呂市御厩野の県史跡「鳳慈尾山大威徳寺跡」の復元イラストの作成を進めている。今後は、成果品を活用した地域振興や観光及び学習の材料を提供することで、“守り”ばかりでない“攻め”の事業を新たに計画する。⇒「目指すまちの姿①」

【成果指標②】 下呂市文化財保存活用地域計画の策定

年度	R2	R3	R4	R5	R6
目標	・県の大綱案調査研究 ・大綱策定意見交換会 で情報収集（県主催）	近隣市町村 と情報交換	近隣市町村 と情報交換	統一見解の 調整	地域計画の 策定
実績	完成した県の大綱案 の研究	—	—	—	—

内部評価：大筋となる県の文化財保存活用大綱が示されたことから、近隣市町村との統一見解を図りつつ、「下呂市文化財保存活用地域計画」の令和6年度の策定完了をめざす。
⇒「目指すまちの姿②」

【成果指標③】 下呂ふるさと歴史記念館（博物館法に定める博物館相当施設）入館者数

年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3
目標	14,500	14,500	14,500	14,500	14,500	15,000	12,000
実績	14,744	15,306	17,449	17,574	17,822	10,455	—

内部評価：入館者数は新型コロナウイルス感染症の影響により減少している。来館者への十分な展示解説ができない状況にあったが、令和2年度より解説員を配置し、展示解説の向上を図った。年間来館者数目標を継続して達成することを目指すと共に、解説員配置を継続するなど、博物館機能の質的向上を目指す必要がある。⇒「目指すまちの姿③」。

2. 主要な個別事業の方針と事業結果について

2-1. 文化財保存修理事業助成費 県・市指定文化財の保存修理補助金 ⇒「まちの姿①」

【県指定】 御厩野：鳳慈尾山大威徳寺跡保存整備（災害復旧）

羽根：羽根白山のサクラ保護（雪害復旧2カ年事業の2年目）

【市指定】 落合：福應寺の華室保存修理（2カ年事業の2年目）、

古閑：お滝不動のサクラとフジ保護、中呂：禅昌寺大玄閑屋根修繕

県史跡の鳳慈尾山大威徳寺跡については台風により被災した史跡内の倒木撤去、また令和元年度から2カ年計画で施工中であった県天然記念物「羽根白山のサクラ」の雪害による折損箇所復旧等事業について、それぞれ工事を完了し文化財保護に努めた。

2-2. 指定文化財保護事業 市内指定文化財の巡視と現地調査・文化財滅失等の審議

⇒「まちの姿①」

【文化財審議会】 3/16：市指定文化財の滅失等に関する審議

【市指定文化財の現状巡視】 保護巡視員15人による年2回の巡視

【県指定文化財申請に係る現地調査】 11/30：県審議会委員による現地調査

市指定美術工芸品である彫刻、来迎釈迦如来木造（金山町中切）について、専門家等、県文化財審議会委員による現地調査を実施、令和3年3月30日付けで県重要文化財に指定された（県指定名 木造釈迦如来坐像）。

文化財巡視員から異常報告のあった文化財について、早期の対応により文化財保護を図っている。

2-3. 加藤素毛記念館／金山郷土館／小坂郷土館／馬瀬民俗歴史資料館／禅昌寺歴史資料館

今日まで地域に大切に伝わった収蔵資料の展示公開⇒「まちの姿③」

【加藤素毛】・【金山郷土館】 地域の郷土史に詳しい人物による希望日開館と対応

【禅昌寺歴史資料館】・【小坂郷土館】・【馬瀬歴史民俗資料館】 地域の民俗資料、埋蔵文化財出土品及び古文書等の収集保管施設

加藤素毛記念館は、遣米使節団の一員として活躍した「県重文加藤素毛の遺品」を展示公開する施設である。令和元年度には加藤素毛伝承事業の一環として下呂市ホームページにて

加藤素毛の伝記漫画を掲載し、令和2年度に書籍を刊行、教育機関に配布した。記念館は金山郷土館とともに地元小学生の社会科見学先として利用されている。禅昌寺歴史資料館は市内の古文書・埋蔵文化財が収蔵保管されており、県内外の研究者による調査研究、県立博物館の展示借用の利用に供している。

令和元年10月より、小坂郷土館・馬瀬歴史民俗資料館を地域の民俗資料の保管施設と位置付け、学校や調査研究目的の利用に限り事前申請の上、開放している。

2-4. 博物館収蔵品調査保存整理事業 古文書や出土遺物を整理保存し新たな価値を発見

⇒「まちの姿③」

【市収蔵資料の調査整理と目録刊行による公開】下呂市埋蔵文化財調査報告書の刊行

【収蔵品を活用した講座・授業の実施】「総合的な学習」授業支援

過去に萩原町教育委員会が行った発掘調査の遺物の再整理を令和元年度に完了し、その成果を「桜洞神田遺跡 遺物実測図・写真図版」として刊行した。

萩原小学校の「総合的な学習」では国指定建造物久津八幡宮の見学や収蔵古文書を利用した授業を行った。そうした機会を通じ、地域の児童・生徒に「今日まで大切にされてきたもの」を伝えることができた。令和2年度に該当はなかったが定期的に刊行する収蔵品目録は、地域に伝わった大切な史料の内容を明らかにし、生涯学習講座・学校授業の基礎を成している。

令和2年度「生涯学習推進の方針と重点」についての点検・評価

生涯学習の基本理念

下呂市は、社会構造の急激な変化、国際化、情報化、価値観の多様化にある現代社会において、その時々課題を的確に踏まえ、新たな視点で生涯学習時代にふさわしい創造と感動と交流を求めて、地域風土に沿った生涯学習社会の構築を目指します。

生涯学習は人づくりであり、地域の主人公である市民が学んだ英知を地域に還元し、あるいは地域活動の原動力とすることにより、市民主体によるまちづくりが推進されることを願っています。

市民一人一人が生涯にわたって豊かな生活がおくれるよう学習し、その英知と努力を結集し、未来を築く生涯学習社会や活力ある地域づくりにつなげることを目指します。

基本理念は以下の3点を柱とし活力ある生涯学習社会の構築を目指します。

- 自立・・・的確に判断し行動・活動ができる、人づくり
- 協働・・・仲間や地域で協力し活動できる、家庭・地域づくり
- 創造・・・伝統や文化の伝承と変化を受けとめ、新たに創り出す社会づくり

市の責務

市民が、参加したい・活動しやすいと感じ、学んだ英知が地域に還元されるような、施策づくりに努めます。

- ① 市民一人一人の学習意欲を喚起するため、事業の企画と啓発活動を積極的に行います。
- ② 市民が気軽に生涯学習にふれあえる施設・設備の開放を進めるとともに、活用する組織の自立した運営を目指します。
- ③ 学習機会の拡充のため、登録団体と連携し、市民へ情報提供を行います。
- ④ 支え合いと活気のある社会を目指し、幅広いボランティアとリーダーの育成を図ります。
- ⑤ 行政相互の連絡・調整を図り市外団体等の活動情報を取得して、市民の期待に応える施策に努めます。
- ⑥ 市民の意見を取り入れながら、誰もが使いやすく、活気あふれる図書館運営を目指します。
- ⑦ 市民生活に活気がみなぎり、快適で美しい環境、豊かな伝統・文化が息づく下呂市になるよう生涯学習事業の展開を目指します。

生涯学習の方向

市民が、その生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に生かすことのできる社会の実現が図られなければなりません。

下呂市は、生涯学習の奨励に必要な施設の設置及び運営等により、すべての市民があらゆる機会、あらゆる場所を利用して、自ら実際生活に即する文化的教養を高め得るような環境を醸成するように努めます。

生涯学習の目標

1. 学習 : 自己をみがき、生きがいをもつ
1. ボランティア : 進んで活動に参加し、社会に奉仕する

分野別方針と評価

個別事業については、別表の「重点と評価」に整理していますが、分野別の主な事業について、次のとおり事業結果等をまとめました。

1. 家庭教育

【方針】

市の家庭教育は、子供の自立と積極的で温かい心の育成など、未来を担う子供たちの人格形成の基礎を培うことを目指します。その実現に向けて、情報提供の工夫と支援プログラムの充実を図るような事業をより一層推進し、関係機関相互の連携を推進します。

(めざすこと)

- ① 妊娠期からの子育て支援
- ② 乳児期から青少年期の段階に見合った子供の育成支援
- ③ こども園や学校、地域の連携による、家庭の教育力の向上

主要な個別事業と事業結果について

○家庭教育支援総合整備事業

「いのちのふれあい講座」は、全中学校3年生を対象に年4回行っており、助産師や看護師による講話、お産劇・妊婦体験・産道体験などの命の体験学習、子育て中の方のエピソードを聴いたり乳幼児とふれあったりする活動等を通して、命の大切さを学ぶと共に、人権意識の高揚、自己肯定感の醸成につながっています。また、今日的課題や小学生からの段階的な学びの必要性を踏まえ、令和2年度より、中学生を対象とした「性の多様性」、小学5年生を対象とした「生命誕生」の講座も行っています。R2年度は、授業数が確保できない中、4回の講座をどう実施したら良いか話し合いを重ねました。内容を2回の講座に凝縮、DVDの活用等の新たな試みも行い、全中学校3年生に対し講座を実施することができました。

「赤ちゃんカフェ、UP カフェ」は、子育て中の母親を対象に開催し、子育てについて学ぶ機会を提供すると共に、親同士や支援スタッフとの語り合いの中で、子育て中の悩みや不安、ストレスの解消に大きく貢献しています。令和元年度に13年間の取り組みの成果を評価され文部科学大臣表彰を受賞しました。R2年度のカフェは、飲食は中止し、人数制限をして、交流の場を提供しました。コロナ禍だからこそ、話す場を求めている方も多く、深刻な悩みを打ち明けられる方が増え、悩み解消の場となりました。緊急事態宣言中は開催できませんでしたが、気になる母親に地域で個別に声をかけるなど、地域に根差したスタッフならではの活動を行い、母親たちの支えとなりました。働く母親が急増し、参加者は減っています。ニーズに合ったカフェの在り方を再考していく必要があります。

「親学び講座」は、親子で様々な体験活動を行うことを通して、親子のコミュニケーションを図ると共に、子育てについての情報や手立てについて、親が学ぶ機会を提供できました。

家庭の教育力低下が叫ばれる中、様々な事業を、地域や学校と連携して行うことができたことは意味があります。保護者の事業参加への意識にはまだ格差があるため、事業の情報を発信していくと共に、子育てを保護者だけの責任とせず、地域全体で子供を育む意識をさらに高めていく必要があります。

2. 青少年教育

【方針】

市の青少年教育は、生涯にわたる学習・生活の基礎等となる知識や技能、主体的に学ぶ意志や態度、さらには公共心を養う事や社会変化に適切に対応できる能力、たくましく生きるための健康や体力など、「誇りをもって共に生きる力」を身に付けることを目指します。

また、近年、子供を取り巻く環境が大きく変化しており、子供たちの成長を支えるには、地域と学校が協働し社会総がかりで教育を行うことが重要であります。そのため、その仕組みである「地域学校協働活動」の事業実施（基盤づくり）と、教育機関や地域社会との連携をより一層推進していきます。

主要な個別事業と事業結果について

○青少年教育事業

下呂市青少年育成推進員をはじめとした市民による青少年育成市民会議により、少年の主張大会、青少年育成顕彰『わかあゆ賞』、国際交流イベント『WakuWaku インターナショナル・フェア』を例年計画していましたが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症対策のため、開催方法の変更または中止を余儀なくされました。

少年の主張大会では、中学生がふだん考えていることを自分の言葉で堂々と発表することを通して、論理的に考える力や、自らの主張を正しく伝え理解してもらう力の育成を目的として、各中学校より代表を選出しています。しかし、休校のため中学校からの選出はできず、一般公募を行いました。応募した2名の中学生の発表・審査を経て、1名は飛騨地区選考会で上位入賞し、県大会出場を果たすことができました。

青少年育成顕彰『わかあゆ賞』では、スポーツ活動、文化活動、奉仕活動の優れた活動を顕彰し、更なる活躍を願うとともに、広く紹介することで青少年の健全育成を進めました。青少年育

成市民会議での表彰式を行うことはできませんでしたが、「広報げろ」での周知や受賞者への表彰状等の送付などコロナ禍での最善策を検討し実施しました。

令和元年度より「英語スピーチコンテスト」を中止し、下呂市内の幼児から大人までが国際文化に触れる機会の場として『WakuWaku インターナショナル・フェア』を新規開催しました。青少年育成推進員会議等で感染対策を講じた開催の検討を重ねましたが、令和2年度は中止となりました。

○青少年健全育成事業

親子わくわく科学体験教室では、家庭や学校では体験できない科学の実験を通じて、子供たちが驚きや感動の体験を味わい、科学への興味を深めています。令和2年度は、休校期間、ケーブルテレビにて家庭でも手軽にできる科学実験として放映し、コロナ禍における新しい形の取組として実施することができました。

ふるさとジュニアサポーター事業は、主に中学生が地域事業（イベントや福祉活動）にボランティアスタッフとして参加することにより、中学生の社会性の育成、自己有用感の高揚、地域への愛着と地域社会の担い手としての自覚を高めるなどの効果が見られています。地域においても将来的な担い手育成につながることを理解していただき、積極的な協力をいただいています。本事業を、地域学校協働活動につなげています。これまでの取組実績において依頼される諸団体は多くありますが、令和2年度においては各団体でイベントの実施等が協議され、各イベントが中止となり、本事業も中止を余儀なくされました。取組の願いや意図は地域に浸透しているので、今後も継続的に行いたいと考えています。

ジュニアリーダーの活動も制限されましたが、中高生の学校で学んだ感染対策（時間・人数・手指消毒・マスクの着用・換気等）を講じた「遊びの会」を実施しました。3密を避けながら下呂の宝を実感できる「下呂温泉街オンライン型オリエンテーリング」を企画しました。何度も検討を重ね、観光課や商工会と連携を取り実施予定でしたが、感染状況の拡大により中止を余儀なくされました。企画したことを令和3年度に実施できるよう、引継ぎを行いました。

3. 地域教育

【方針】

社会構造の変化から、全国的な地域コミュニティの衰退が課題となっています。近年住民側、市民団体側からの再生の動きが注目されています。その背景には、次のようなことがあります。

- ① 大災害などに備え、コミュニティの結束力を再構築する動きが広がっていること。
- ② 地域コミュニティ自体に活動の機運が強まっていること。

日常生活における最小コミュニティは家族ですが、地域社会とのふれ合いは豊かな家庭生活を築く大きな力をもっています。人々との交流の中で生まれる喜びの感情や、災害などに遭遇したときの相互扶助の役割は、地域コミュニティに大いに期待されるべきものです。

地域コミュニティの重要性が改めて唱えられてきている機運を高めるため、地域社会との連携を推進していきます。

主要な個別事業と事業結果について

○地域学校協働活動

本事業は地域と学校が目標を共有し地域全体で子供たちの成長を支え、地域づくりを進める様々な活動です。本活動を通じて子供たちの郷土愛の醸成のみならず、地域活動の活発化、地域教育を図りました。先行実施されている学校運営協議会での熟議（子供の育ちと地域づくり）をもとに、地域学校協働活動と有機的につなげていく事が課題です。この活動を目的的かつ持続的に進めていくために願いの共有化、地域人材の発掘、働きかけ活動の支援を行いました。本事業（放課後子ども教室含む）は、生涯学習の基本理念である「学んだ英知を地域に還元」を行っています。地域住民が子どもの成長や学びのため自身の英知（経験や知識）により支えていく事業です。

コロナ禍、子どもたちの安心・安全を守るために地域の方々によって「健康観察」や「交通量の増えた道路の見守り」などピンチを「地域のつながりづくり」というチャンスに変える取組がなされました。また、感染対策を講じた上での「職業体験」や「マスク作り」など、総合的な学習の時

間や教科の講師として地域の方々が活躍をされています。感染予防の観点から地域とのつながりは制限されましたが、こうした中でも「できることを、できる時に、できる方法を見い出して」実施することができました。

○放課後子ども教室

令和元年度から放課後子ども教室を実施しました。保護者や主婦、学生などの参画もあります。それぞれが地域の子供たちの成長や学びを支えるという意識をもって参画しているだけでなく、活動を自分自身の喜びや生きがいと感じていることも多いです。青少年育成は勿論のこと、地域で子供の成長を支えていくことが地域活性化に繋がっていくと考えています。また、保護者からの感謝や信頼の念も高く、青少年育成事業として高い評価も得ています。新型コロナウイルスの感染状況から一定期間、人数を制限した時期もありましたが、対策の指針に沿った教室の実施をスタッフ中心に行うことができました。

○生涯学習講座

市全体の生涯学習講座として春と秋の2期に講座開設予定していましたが、コロナ過のため中止となりました。市民からの実施要望が高く、担当である当係に問い合わせもありました。今後は受講者の増加と高い満足度を目指し、生涯学習講座の魅力について広くPRを行います。

金山地域の、菅田・金山・下原・東の4公民館による講座開設も中止となりました。講座は地域を繋ぐきっかけともなっており、地域づくりにも貢献していくものと思われるため、事業実施に向け準備を整えました。

4. 情報教育

【方針】

インターネットがグローバルな情報通信基盤となり、パソコンやスマートフォンが広く個人にも普及している中、誰もが情報の受け手だけでなく手軽に情報発信が可能となり、日常生活における情報の扱いも大きく変化しています。

市の情報教育は、情報の理解、情報活用、情報社会への参画を推進していきます。

◇ 市民の情報活用

情報を適切に扱い、情報内容の評価・改善するための方法、理解力の育成。

◇ 市民の情報への理解

課題や目的に応じた必要な情報を主体的に収集・判断・表現・処理・創造し、受け手の状況などを踏まえて発信・伝達できる能力の育成。

◇ 情報社会に参画

社会生活の中で情報が果たしている役割や影響を理解し、情報モラルの必要性や情報に対する責任について理解し、望ましい情報社会の創造に参画する。

主要な個別事業と事業結果について

○図書館運営

萩原、下呂、金山の3図書館、小坂の1図書室、馬瀬の1移動図書館を設置しています。蔵書数は、市民一人当たり、平成30年度で3.3冊、元年度には3.5冊、令和2年度には3.7冊と年々増加し、充実しております。一人当たりの貸出数は平成30年度で2.9冊、元年度で3.1冊、令和2年度は2.3冊となっています。令和2年度につきましては、新型コロナウイルス感染症予防対策のため、休館日等が続いたため減少したと思われます。また、県内貸出数平均値5.4冊より下回っており、施設規模は県内19位（全21市）や市民一人当たりの蔵書数19位からみると、小規模で蔵書も少ない施設となっていますが、図書館での企画や魅力ある蔵書収集をして利用者増に努めます。

生涯学習事業の重点事業と評価

重 点		評 価		
重 点（ 事 業 ）		(分野別教育)	アウトプット	アウトカム
社会教育事業 10040105	◇下呂市社会教育委員の会を開催し、市民活動推進課所管事務業の評価を行い、健全な事業運営に努める。 ◇社会教育関係団体（県・飛騨社教等）との連携	(3) 地域教育 (4) 情報教育	社会教育委員の会 10名 4回開催 ・生涯学習の基本方針の策定に関わる意見・提言 ・下呂市社会教育関係団体年度末登録団体数 118団体 ・まちづくり人材バンクの登録件数 107件	「下呂市生涯学習推進の方針と重点」の見直しにより、さらに生涯学習の重要性が理解されることとなりました。
青少年教育事業 10040201	◇少年の主張の開催 ◇青少年顕彰(わかあゆ賞)の実施 ◇ワクワクインターナショナルフェアの開催 ◇青少年育成市民会議の開催 ◇青少年文化等振興激励金交付 ◇立入検査(有害図書等)の実施 ◇人権学習資料の配布	(2) 青少年教育 (3) 地域教育 (4) 情報教育	下呂市青少年育成推進員 13名 青少年育成市民会議主催行事 ①青少年育成市民会議 【R2. 6. 20開催】 ・少年の主張下呂市大会 コロナ禍、4・5月休校であったため、学校代表は選出せず市内中学校を通して公募した結果、2名の応募がありました。無観客にて発表・審査を行い(CCNで放映)、上位1名を飛騨地区選考会へ推薦しました。地区でも上位となり、県大会出場を果たしました。 ・青少年育成顕彰わかあゆ賞 青少年の文化、スポーツ、奉仕活動等の優れた活動 顕彰 82名、5団体 新型コロナウイルス感染症予防のため、授与式は行わず、郵送しました。 ②ワクワクインターナショナルフェア 【中止】 新型コロナウイルス感染症予防対策のため開催を中止しました。 青少年全国大会出場激励金 2名、10千円	少年の主張大会は、2名の参加ではありませんでしたが、自らの主張を堂々と発表し評価を得たことで、生徒の自信や意欲等につながりました。また、無観客開催であったため、CCN放映を行い、中学生や市民の関心向上を図りました。コロナ禍でもできることを探り、青少年の健全育成を進めました。

生涯学習事業の重点事業と評価

重 点		評 価		
重 点（事業）		(分野別教育)	アウトプット	アウトカム
青少年健全育成事業 10040205	◇子ども会活動の推進 ◇親子わくわく科学体験教室の開催 ◇下呂市青少年育成推進員会議 ◇ふるさとジュニアサポーター活動の推進	(1) 家庭教育 (2) 青少年教育 (3) 地域教育	(1) 親子わくわく科学体験教室 市内小中学校の理科担当教諭等で構成された「下呂サイエンスの会」がボランティアで実務担当 学校や家庭では体験できない科学を通じて、子どもたちが驚きや感動の体験を味わい、親子のふれあいを深める機会を作ることを目的として実施 ①夏季の部 新型コロナウイルス感染症予防のため、ケーブルテレビにて放映 ②冬季の部 新型コロナウイルス感染症予防のため中止 (2) 青少年各種団体補助金 2,383千円（実績890千円） ・子ども会等活動育成補助金 (3) ふるさとジュニアサポーター活動 新型コロナウイルス感染症予防のため、中止	・子ども会活動では、新型コロナウイルス感染症予防で活動ができない中でも、各子ども会が安全に配慮した活動を検討実施し、貴重な体験ができました。 ・親子わくわく科学体験教室は中止となりましたが、休校期間における、「自宅でもできる科学実験」の放映（CCN）は、科学の楽しさを伝え広めると共に、主体的な家庭学習を促す契機となりました。 ・青少年育成推進員会議では、市民会議やワクワクインターナショナルフェア運営等を通じて青少年育成活動を推進していくことを確認できています。 ・コロナ禍、中学生が地域に出て活動することができなくなり、体験機会や地域の人とのつながりが減りました。学校運営協議会を中心とし、学校と地域との連携の中で、豊かな体験ができるよう、つながり作りを行います。
地域学校協働活動推進事業 10040207	◇地域学校協働活動 ◇放課後子ども教室（上原・中原小学校区）	(1) 家庭教育 (2) 青少年教育 (3) 地域教育	地域学校協働活動 ・地域学校協働本部設置等への補助や助言を行いました。 放課後子ども教室 ・上原っ子クラブ(上原小学校区) 令和元年10月より開始 R2開催回数171回 参加児童数(平均)16人 全スタッフ数16人 ・中原っ子クラブ(中原小学校区) 令和元年11月より開始 R2開催回数165回 参加児童数(平均)9人 全スタッフ数12人 ※新型コロナウイルス感染症予防のため、人数制限を行い開催した。	子供たちの郷土愛の醸成のみならず、住民活動の活発化、地域教育を図りました。先行実施されている学校運営協議会の取り組みを地域学校協働活動と有機的につなげていく事が課題です。この活動を積極的に行えるよう地域人材の発掘、働きかけ活動の支援を行いました。取組み等を紹介するリーフレットを作成し保護者や地域住民に周知を図りました。 放課後子ども教室の運営スタッフは、地域住民にて十分な人数が確保でき、安定した教室運営を行うことができています。高齢者・保護者・主婦・学生などの参画もあります。それぞれが地域の子供たちの成長や学びを支えるという意識をもって参画しているだけでなく、活動を自分自身の喜びや生きがいと感じていることも多いです。保護者からの感謝や信頼の念も高く、青少年育成事業として高い評価も得ています。

生涯学習事業の重点事業と評価

重 点		評 価		
重 点（事業）		(分野別教育)	アウトプット	アウトカム
成人式開催 10040209	◇成人式の開催（旧町村単位で行う）令和2年1月11日（土）、12日（日）	(2) 青少年教育 (3) 地域教育	成人式開催（5地区） 対象者306人中 257人参加 （内WEB参加10人） 令和3年1月9日（土） 萩原 109人 馬瀬 12人 金山 42人 令和3年1月10日（日） 小坂 19人 下呂 75人	各地区にて成人を迎える子供たちを集めて実行委員会をひらき、成人式の内容を決めています。成人を迎える子供たち自身で成人式を作るため、地元の良さを再確認できています。 WEBライブ配信による参加という新たな取組を実施し、コロナ過によって会場に参加できない方にも配慮した開催ができました。
山之ロキャンプ場管理運営 10040213	◇山之ロキャンプ場の維持管理。利用期間は4月から10月	(2) 青少年教育 (3) 地域教育	令和2年度利用者 0人	コロナ感染症予防対策のため、利用受付を中止しました。
下呂市交流キャンプ開催 10040221	◇下呂市交流キャンプを実施（山之ロキャンプ場を会場にして市内の小中学校児童生徒から希望者） ◇ジュニアリーダーの資質向上と青少年の健全育成 ◇子ども会活動の充実を図る。	(1) 家庭教育 (2) 青少年教育	下呂市交流キャンプ開催 市内の小中学生が集い、野外活動を通じた青少年の健全育成を図ると共に、ジュニアリーダーの指導技術向上を目的に開催を予定していたが開催を中止した。 ①ワークキャンプ ②交流キャンプ	新型コロナウイルス感染症予防対策の活動を休止し実績を残せなかったことから、協働作業の大切さや集団行動を通しての個人の成長が見込まれる事業ができませんでした。

生涯学習事業の重点事業と評価

重 点			評 価	
重 点（事業）		(分野別教育)	アウトプット	アウトカム
社会教育活動推進事業 10040301	◇PTA活動の推進支援 ◇生活学校活動の推進支援（金山）	(1) 家庭教育 (2) 青少年教育 (3) 地域教育 (4) 情報教育	社会教育関係団体補助金 547千円 【対象団体】 市PTA連合会 519千円 金山町生活学校 28千円	各団体の活動補助を行い社会教育活動の継続に繋がったが、新型コロナウイルス感染症対策の影響のため、活動の制限により補助対象が減りました。
家庭教育支援総合整備事業 10040305	◇親学び講座（父親参加の体験型講座を含む） ◇命のふれあい講座 ◇企業内家庭教育研修会 ◇家庭教育支援事業（下呂市家庭教育支援チーム） ◇子育て支援の連携会議による家庭教育相談体制の強化 ◇社会教育主事2名の配置による推進体制強化の継続	(1) 家庭教育 (2) 青少年教育 (3) 地域教育 (4) 情報教育	(1)親学び講座 親学び講座 5回開催 86人参加 (2)下呂市家庭教育支援事業 UPカフェ・赤ちゃんカフェ 支援チームスタッフ 9人、 開催22回、延べ参加者242人 小坂地域0回、萩原地域6回、 馬瀬地域0回、下呂地域9回、 金山地域7回 (3)いのちのふれあい講座 市内6中学校12回・3小学校にて5回、 延べ参加者693人	親学び講座では、親子で様々な体験をすることを通して、親子のコミュニケーションづくりを図り、子育てのヒントとなる情報や手立てを学ぶ機会を作りました。 UPカフェ・赤ちゃんカフェでは、コロナ対策で飲食は中止しましたが、保護者同士や保護者と支援チームスタッフとの語り合いの場をつくり、子育て中の母親の悩みや不安の解消、ストレス発散を図りました。コロナ禍だからこそ、交流の場を求めている母親のニーズに応えることができました。 いのちのふれあい講座は、休校で時間数が足りないため、4回の講座を2回に凝縮して行いました。市内中学3年生全員が、命の大切さ等を学び、人権への意識、自己肯定感の醸成につながりました。 今年度から実施予定だった小学校の講座は、コロナ禍実施が難しく、希望する学校のみ行いました。来年度からどの学校でも行えるよう、学校と会議をもち、準備を進めることができました。
生涯学習講座 10040309	◇生涯学習講座の開催 ・参加者 延べ1100人を見込む ・前期（5～9月）13講座を募集し、8講座を実施 ・後期（10～3月）12講座を募集し、9講座を実施	(1) 家庭教育 (2) 青少年教育 (3) 地域教育 (4) 情報教育	講座の実施状況 全ての活動を中止	コロナ感染症予防対策のため、活動を休止し実績を残せませんでした。

生涯学習事業の重点事業と評価

重 点		評 価		
重 点（事業）		(分野別教育)	アウトプット	アウトカム
公民館活動 10040401	◇公民館条例に規定する公民館活動 ◇各公民館独自開催による講座の開催	(3) 地域教育 (4) 情報教育	講座の実施状況 全ての活動を中止	コロナ感染症予防対策のため、活動を休止し実績を残せませんでした。
公民館施設管理 10040405	◇市内10か所の公民館管理。 ①山之口公民館 ②あさんず会館 ③湯屋地区公民館 ④竹原公民館 ⑤上原公民館 ⑥中原公民館 ⑦下原公民館 ⑧東公民館 ⑨菅田公民館 ⑩馬瀬中央公民館	(3) 地域教育 (4) 情報教育	施設の利用状況 山之口公民館 681人 前年度比40.3% あさんず会館 1,624人 前年度比38.6% 湯屋地区公民館 203人 前年度比11.7% 竹原公民館 5,091人 前年度比51.8% 上原公民館 613人 前年度比28.8% 中原公民館 1,435人 前年度比47.3% 下原公民館 2,770人 前年度比46.1% 菅田公民館 1,220人 前年度比26.1% 東公民館 326人 前年度比24.2% 馬瀬中央公民館 716人 前年度比43.8% 計 14,679人 前年度比40.5%	適正な維持管理を行いえました。新型コロナウイルス感染症予防対策のため休館や行事等の自粛要請をしたため、利用人数の減少がみられました。また、各公民館では、地域行事の実行委員会会議や、特定健診の場として活用されています。

生涯学習事業の重点事業と評価

重 点		評 価		
	重 点（事業）	(分野別教育)	アウトプット	アウトカム
公民館施設維持補修 10040409	◇市内7ヵ所の公民館にかかる小規模修繕	(3) 地域教育	公民館軽微修繕 214千円	適正な維持修繕を行い、利用者にとって利用しやすい条件を整えました。
図書館運営 10040501	◇3図書館（はぎわら、下呂、金山）及び小坂図書室と馬瀬移動図書館の運営 ◇新刊図書購入費、図書システム運用管理 ◇資料の充実、雑誌・月刊誌の充実 ◇広報活動	(1) 家庭教育 (2) 青少年教育 (4) 情報教育	・蔵書数 R1 113,324冊 R2 114,273冊（↑） ・貸出数 R1 97,609冊 R2 70,208冊（↓） ・年間190日開館	蔵書数は増加しています。今後も積極的な集客事業を行っていきたい。
文化伝統芸能推進事業 10040758	◇全国芝居小屋会議負担金及び総会参加旅費 ◇下呂市文化協会への活動補助金	(3) 地域教育	・全国芝居小屋会議はオンライン開催 ・文化祭中止	コロナ感染症予防対策のため市文化祭及び地区文化祭は中止されました。次年度の開催に向けて調整を行いました。
位山自然の家管理運営 10040801	◇位山自然の家の管理運営 ◇耐震診断結果により令和元年度より施設休止中。	(2) 青少年教育 (3) 地域教育 (4) 情報教育	耐震診断結果により施設休止中	施設のあり方について地元自治会との調整会議を行うなど、今後の方針について検討を継続中。
いきいきセンター管理運営 10040809	◇いきいきセンター管理運営	(3) 地域教育	令和2年度利用者72人 ※前年度比 7.7%	利用者について、新型コロナウイルス予防対策により利用減となりました。
社会教育施設維持補修事業 10040813	◇社会教育施設の小規模修繕、維持補修 ◇位山自然の家・いきいきセンター・山之ロキャンプ場	(2) 青少年教育 (3) 地域教育	小規模・維持的修繕なし	各社会教育施設において、年度内の修繕はありませんでした。